



下北半島採集の鳥類よりえたハジラミ

1058

中川 宏・河合 武

Hiroshi NAKAGAWA & Takeshi KAWAI: Mallophaga from the Birds
collected in Shimokita Peninsula, Aomori Pref.

資源科学研究所彙報 第50号 別刷

Reprinted from Miscellaneous Reports of
the Research Institute for Natural Resources. No. 50.

Research Institute for Natural Resources
4-400, Hyakunin-cho, Shinjuku-ku,
Tokyo, Japan

昭和 34 年 (1959)



下北半島採集の鳥類よりえたハジラミ*

中川 宏・河合 武**

Hiroshi NAKAGAWA & Takeshi KAWAI: Mallophaga from the Birds collected in Shimokita Peninsula, Aomori Pref.

1957 年秋、筆者らは下北半島において小形哺乳類および鳥類の外部寄生動物の調査を行った。この期間中に採集した鳥類は表 1 に示すとおり 4 目 12 属 16 種に所属する 22 個体であり、うちハジラミの寄生をみた宿主はハシボソカラス、キンクロハジロ、オシドリ、アカエリヒレアシシギ、ツルシギおよびウミネコの 6 種であった。稿を進めるにあたり、御鞭達をたまわった浅沼靖博士、沢田玄正教授に感謝すると共に、採集を許可された農林省林野庁当局に感謝する次第である。

表 1. 調査宿主

| | 学 名 | 和 名 | 員 数 | 採集地 |
|-----|--|------------|-----|-----|
| 燕雀目 | <i>Corvus corone orientalis</i> * | ハシボソカラス | 1 | I |
| | <i>Emberiza spodocephala personata</i> | アオジ | 1 | Y |
| | <i>Emberiza cioides cioides</i> | ホオジロ | 1 | Y |
| | <i>Emberiza variabilis</i> | クロジ | 1 | Y |
| | <i>Sitta europae hondoensis</i> | ゴジュウカラ | 6 | Y |
| | <i>Parus major minor</i> | シジュウカラ | 1 | Y |
| | <i>Parus ater insularis</i> | ヒガラ | 1 | Y |
| | <i>Cinclus pallasii hondoensis</i> | カワガラス | 1 | Y |
| 雁鴨目 | <i>Aytha fuliginea</i> * | キンクロハジロ | 1 | Y |
| | <i>Aix galericulata</i> * | オシドリ | 1 | Y |
| 鷓 目 | <i>Lobipes lobatus</i> * | アカエリヒレアシシギ | 1 | S |
| | <i>Tringa incana brevipes</i> | キアシシギ | 1 | S |
| | <i>Tringa erythropus</i> * | ツルシギ | 1 | T |
| | <i>Gallinago gallinago</i> | タシギ | 1 | O |
| | <i>Charadrius dominicus fulvus</i> * | ムナグロ | 1 | S |
| 鷗 目 | <i>Larus crassirostris</i> * | ウミネコ | 1 | Oh |

I, 入口; Y, 基研; S, 尻屋; O, 大湊; Oh, 大畑, T, 田名部 * ハジラミの寄生をみたもの。宿主の学名は日本鳥類目録 (1958) に従った。

* 資源科学研究所業績 第 937 (1959 年 2 月 17 日受理)

** 東京農業大学昆虫学研究室

採集品目録は下記のとおりである。分類方式は Hopkins & Clay¹⁾ によった。

I. *Actornithophilus* Ferris, 1916

1. *Actornithophilus affinis* (Nitzsch), 1874

2 ♂♂, 2 ♀♀, 宿主, ツルシギ。

II. *Austromenopon* Bedford, 1939

2. *Austromenopon corporosum* (Kellogg & Kuwana), 1951

9 ♂♂, 10 ♀♀, 宿主, アカエリヒレアシギ。

本種はハイイロヒレアシギを宿主とする種類より記載されたものであるが, アカエリヒレアシギを宿主とする種類も前者と同一と考えられる。このかぎりにおいて, 最近 Timmermann¹⁰⁾ がアカエリヒレアシギ寄生の種類に与えた *A. spenceri* は, *A. corporosum* と異名とみなさるべきであろう。

3. *Austromenopon lutescens* ssp.

2 ♀♀, 宿主, ツルシギ。

一般にクサシギ属 (*Tringa*) に寄生する *Austromenopon* はエリマキシギに寄生する *A. lutescens* に近縁である。クサシギ属に寄生する種

類は Clay が整理中のよしで, 近く本亜種にも命名されるであろう。

III. *Trinoton* Nitzsch, 1818

4. *Trinoton querquedulae* (Linn.), 1758

2 ♀♀, 宿主, キンクロハジロ。

Clay & Hopkins¹¹⁾ にしたがえば, 本種の基本宿主はシマアジではなく, コガモである。わが国からは Uchida¹¹⁾ がヨシガモ, マガモ, ホオジロガモ, コガモ, オナガガモ, ヒドリガモ, オシドリから記録している。キンクロハジロからえた標本は新標式標本に与えられた附図に細部において一致しないが, 筆者らはコガモ寄生の *Trinoton* を雄, 幼虫以外に所持せず, 同定にさいし充分の検討ができなかった。

IV. *Myrsidea* Waterston, 1915

5. *Myrsidea cornicus* (De Geer), 1778

3 ♂♂, 2 ♀♀, 宿主, ハシボソカラス。

本種は従来 *M. mesoleuca* として報告されており, ハシボソカラスに最も普通にみられるものである (同宿主に寄生する *Philopterus ocellatus*, *Brülla rotundata* は比較的少ない)。特徴のいちじるしい種類で, 雄交尾器の genital sac が硬化すること, 雌腹節第 I—II 背板の形状が特異であることから, 他のカラス類に寄生する *Myrsidea* から容易に識別できる。

V. *Quadriceps* Clay & Meinertzhagen,

1939

6. *Quadriceps connexus* (Kellogg & Mann), 1919

10 ♂♂, 4 ♀♀, 宿主, アカアシヒレアシギ。

本種の雄交尾器の記載は Timmermann⁹⁾ により行われているほか, 筆者の一人中川は, 下北産の材料に基づき, 全形, 頭部, 交尾器を図示しており, それを参照されたい¹²⁾。

7. *Quadriceps furvus* (Burmeister), 1838

20 ♂♂, 20 ♀♀, 宿主, ツルシギ。

日本からの本種の記録は, Hopkins & Timmermann に次ぐものである。すなわち同著者は, 新標式標本をもうけるにあたって, 基産地の一つとして日本をあげている。

クサシギ属 (広義) に寄生する *Quadriceps* は雄交尾器の分化が進み, 興味深い一群で, ハジラミの形態から宿主の検索は容易である。この

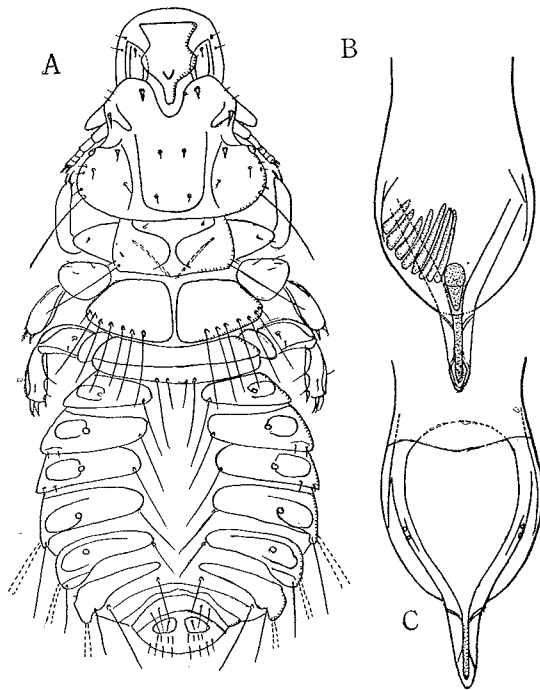


Fig. 1. *Anatoecus obtusus*.
A. Dorsal surface of male.
B. Male genitalia, effractor type.
C. Ibid, non-effractor type.

群はカラフトアオアシシギを除く宿主について調査がおわり、原稿を準備中である。

VII. *Saemundssonina* Timmermann, 1935

- 8. *Saemundssonina nitzschi* (Giebel), 1866
1 ♂, 1 ♀, 宿主, ツルシギ。
- 9. *Saemundssonina parva* (Piaget), 1880
1 ♂, 1 ♀, 宿主, ウミネコ。
- 10. *Saemundssonina* sp.
1 ♂, 1 ♀, 宿主, アカエリヒレアシシギ。

VIII. *Anatoecus* Cummings 1916

- 11. *Anatoecus obtusus* (Giebel), 1866
18 ♂♂ (without *effractor*), 5 ♂♂ (with *effractor*), 26 ♀♀, 宿主, キンクロハジロ。

ハジラミにおいて交尾器の形態は他の部分の形態とともに、分類学上、重要な識別点であることは広く認められているが、カモ類寄生の *Anatoecus* では、同一個体の宿主からえた単一の集団中にさえ雄交尾器に二型をみとめることができる。すなわち Cummings¹⁴⁾ のいう“*effractor*” (細片) をもつものと、もたぬものに大別されるのである。下北産の材料ではこの二型が1:4の比でみることができたが、Giebel¹⁵⁾ の示す *A. obtusus* はそのいずれであるか明らかでなく、かりに二型とも *A. obtusus* と示しておく。

- 12. *Anatoecus* sp.

2 ♂♂, 3 ♀♀, 宿主, オシドリ。

下北産の材料に加え、青森、千葉で採集した材料を検討したが、いずれも *effractor* をもたぬものであった。

VIII. *Acidoproctus* Piaget, 1878

- 13. *Acidoproctus moschatae* ssp.

2 ♂♂, 2 ♀♀, 宿主, オシドリ。

Hopkins & Clay¹⁾ によれば、*Acidoproctus* は *Ornithobius* の亜属におくことが正しいというが、本報では *Acidoproctus* では触角に性差がしめされぬこと、雌背板が分割されることから、一応独立した属としてとりあつかっておく。しかし、頭部の概形、剛毛式、雄腹板の構造、雄交尾器の形状からみると、*Ornithobius* と *Acidoproctus* は、*A. moschatae*, *taschenbergi*, *kelloggi* を連鎖として結合することは否定しがたい。

オシドリにみられる *Acidoproctus* は、頭部の

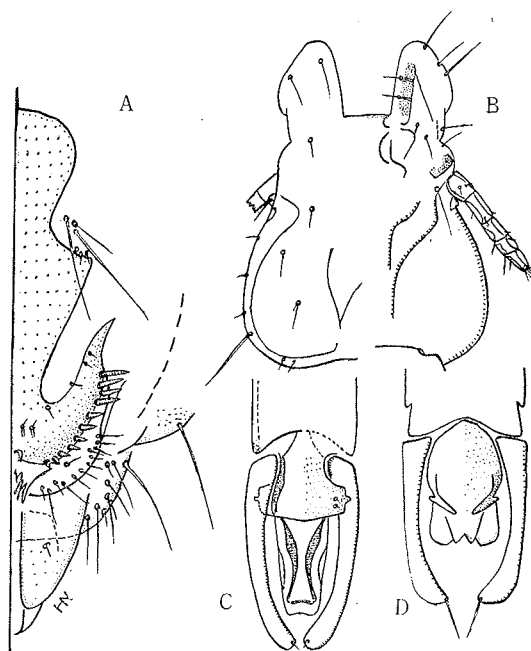


Fig. 2.
A. *Acidoproctus moschatae* ssp. from *Aix galericulata*; Female valva.
B. Ibid, male head.
C. Ibid, male genitalia.
D. *Acidoproctus rostratus* from *Dendrocygna vidata*; male genitalia.

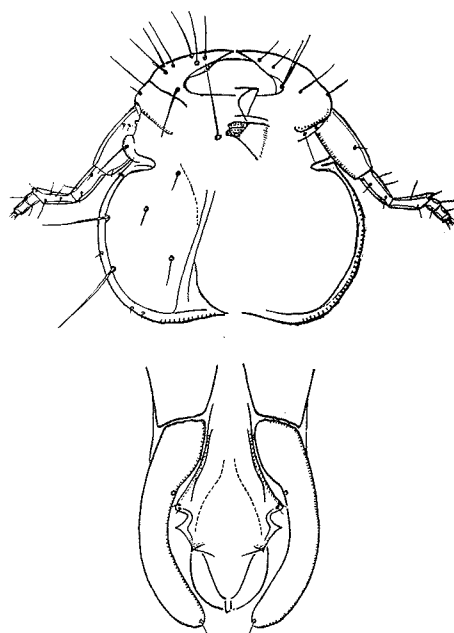


Fig. 3. Male of *Ornithobius cygni* from *Cygnus cygnus*.

概形, 雄末端節背面の剛毛式, 雌生殖板の形状等は, ほぼ完全に *Netta rufina* を宿主とする *A. moschatae* に一致する。しかし雄交尾器 endomere の外側がわずかに陥入する点は *A. kelloggi* に近い。

本属の従来記録は, リウキウガモ寄生の種類が *A. bifasciatus* (= *rostratus*) の名のもとに1種

報告されたにとどまる。Carriker²⁾ の指示によれば, *A. rostratus* の基本宿主は *Dendrocygna vidata* であり, また新標式標本に与えた測定値は体長, 雄 4.28 mm, 雌 4.14 mm であるのに対し, 日本記録種のそれは雄 3.3 mm, 雌 2.9 mm であるかに小さく, あるいは別種であることも考えられる。

参 照 文 献

- 1) Blagoveshtchensky (1948), Mag. Parasit. Leningr. & Moscow, 10, (2) 81.
- 2) Carriker, M. A. (1949), Proc. U. S. Nat. Mus., 100, (3266) 377~386.
- 3) Clay, Th. & Hopkins, G. H. E. (1950), Bull. Brit. Mus. (Nat. Hist.) Ent. 1, (3), 223~272.
- 4) Hopkins, G. H. E. & Clay, Th. (1952), A Check List of the Genera & Species of Mallophaga, 362 pp. London.
- 5) ——— & Timmermann, G. (1954), Trans. R. Ent. Soc. Sond., 105, pt. 8, 131~150.
- 6) 中川宏・河合武 (1957), 新昆虫, 10, (7), 42.
- 7) 中川宏 (1959), 鳥獣集報 (印刷中).
- 8) Timmermann, G. (1954), Ann. Mag. Nat. Hist., ser. 12, 7, 829-841.
- 9) ——— (1955), Ibid., ser. 12, 8, 513-534.
- 10) ——— (1956), Bonn. zool. Beitr., 1-3, 186-192.
- 11) Uchida, S. (1926), Jour. Coll. Agric., 9, (1), 1~56.
- 12) 内田清之助 (1932), 日本昆虫図鑑, 東京.
- 13) 日本鳥学会編 (1958), 日本鳥類目録, 改訂四版, pp. 264, 東京.
- 14) Cummings (1916), Proc. zool. Soc. Lond., 653.
- 15) Giebel (1816), Z. ges. Nat. Wiss., 28, 363.

Summary

Mallophaga from the birds collected in the autumn of 1957 from Shimokita, Aomori Pref. are listed as follows:

1. *Corvus corone orientalis*: *Myrsidea cornicus*.
2. *Aythya fuligiae*: *Anatoecus obtusus* (Two forms), *Trinoton querquedulae*.
3. *Aix galericulata*: *Anatoecus* ssp., *Acidoproctus moschatae* ssp.
4. *Lobipes lobatus*: *Austromenopon corporosum*, *Saemundssonina* sp., *Quadriceps connexus*.
5. *Tringa erythropus*: *Actornithophilus affinis Austromenopon lutescens* ssp., *Quadriceps furvus*, *Saemundssonina nitzschi*.
6. *Larus crassirostris*: *Saemundssonina parva*.